

## 行事案内

### 夏休み考古学教室 — 体験考古学 —

内 容 : 発掘作業と出土品整理体験、石器製作体験  
 日 時 : 中学生の部 8月4日(火)・5日(水) 10:00～16:00  
 高校生の部 8月6日(木)・7日(金) 10:00～16:00  
 場 所 : 8月4日・6日伊勢原市西富岡・向原遺跡発掘現場  
 小田急伊勢原駅から神奈中バス「伊勢原駅北口」日向薬師行き「専修大学入口」バス停下車すぐ  
 小田急伊勢原駅から神奈中バス「伊勢原駅北口」七沢行き「専修大学入口」バス停下車すぐ  
 8月5日・7日野庭出土品整理室  
 地下鉄上永谷駅から市営バス 45・112 系統港南台・洋光台行き「すずかけ通り」バス停下車徒歩3分  
 地下鉄・京急上大岡駅から市営バス 51 系統野庭中央公園行き「すずかけ通り」バス停下車徒歩3分  
 JR 港南台駅から市営バス 45 系統上永谷駅行き「すずかけ通り」バス停下車徒歩3分  
 JR 洋光台駅から市営バス 45・112 系統上永谷駅・京急ニュータウン行き「すずかけ通り」バス停下車徒歩3分  
 定 員 : 中学生10名・高校生 10 名(応募者が定員を超えた場合は抽選になります。)  
 費 用 : 無 料  
 申し込み方法 : 往復はがき又はメールに行事名、氏名、学校名・学年、住所、電話番号を明記して、かながわ考古学財団 野庭出土品整理室へお申し込み下さい。(締め切り7月 15 日(水)必着)

### 覗いてみよう発掘作業が終わったら。出土品整理作業見学会

内 容 : 出土品の整理作業見学と作業体験  
 日 時 : 8月 22 日(土) 午前の部 10:00～11:30、午後の部 13:00～14:30  
 ※上履きをご持参ください。  
 場 所 : 野庭出土品整理室  
 地下鉄上永谷駅から市営バス 45・112 系統港南台・洋光台行き「すずかけ通り」バス停下車徒歩3分  
 地下鉄・京急上大岡駅から市営バス 51 系統野庭中央公園行き「すずかけ通り」バス停下車徒歩3分  
 JR 港南台駅から市営バス 45 系統上永谷駅行き「すずかけ通り」バス停下車徒歩3分  
 JR 洋光台駅から市営バス 45・112 系統上永谷駅・京急ニュータウン行き「すずかけ通り」バス停下車徒歩3分  
 ※駐車スペースが無く、また他の来場者の迷惑になりますので、車でのご来場はご遠慮ください。  
 費 用 : 無 料  
 申し込み: はがき・メールに行事、氏名、人数を明記して、または電話にて、かながわ考古学財団 野庭出土品整理室へお申し込みください。(締め切り8月 21 日(金))

### 入門考古学講座第3回『ようこそ考古学』

平成 21 年度 第3回テーマ 「縄文時代の装身具」(仮題)

日 時 : 9月4日(金) 19:00～20:30  
 場 所 : 横浜市西公会堂1号会議室(横浜駅西口から徒歩 10 分 相鉄線「平沼橋駅」から徒歩8分)  
 講 師 : 近藤匡樹(かながわ考古学財団)  
 定 員 : 108名(応募者が定員を超えた場合は先着順になります)  
 費 用 : 無 料  
 申し込み方法 : 往復はがき又はメールに行事名、氏名、住所、電話番号を明記して、かながわ考古学財団 野庭出土品整理室へお申し込み下さい。(締め切り8月 26 日(金)必着)

発掘帖バックナンバーはホームページ (<http://www.kaf.or.jp>)からダウンロードできます。



お 申 し 込 み  
お 問 い 合 わ せ

(財) かながわ考古学財団 野庭出土品整理室  
 〒234-0056 横浜市港南区野庭町 1660 E-mail: fukyu@kaf.or.jp  
 TEL: 045-842-9888 (平日 8:30～17:15) FAX: 045-842-9904

# 考古学財団発掘帖

2009  
2号

かながわ考古学財団情報誌

通巻9号

平成 21 年6月 30 日発行

年4回発行



## 伊勢原市

### 西富岡・向畑遺跡 (にしとみおか・むこうばた いせき)

西富岡・向畑遺跡は、伊勢原市西富岡に所在します。調査は、第二東名高速道路建設に伴う事前調査として、2007 年4月から調査を実施しています。西富岡遺跡からは、近世～旧石器時代(弥生時代を除く)までの多くの遺構・遺物が発見されています。今回は、縄文時代後期の水場遺構を紹介します。水場遺構からは、口縁を上に据え置かれた深鉢と杭や横板、クルミを主体とした堅果類の集中地点などが見つかっています。杭は、縦横に何本か並んで見つかり、水の流れを利用した作業場を構成していたものと見られます。

### 目 次

- 発掘現場・出土品整理インフォメーション
- 海老名市: 杜家宇治山遺跡
- 伊勢原市: 下糟屋・丸山遺跡
- イベントレポート 津久井城(本城曲輪)
- 考古学ミニコラム 石斧

### ● 行事案内

- 体験考古学
- 出土品整理見学会
- 入門講座ようこそ考古学



(財) かながわ考古学財団

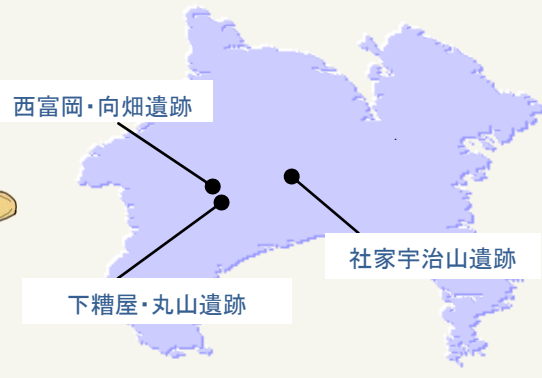
〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1

☎ 045-252-8689 FAX 045-261-8162 URL <http://www.kaf.or.jp>



# 発掘現場・出土品整理 インフォメーション

ぼくは川尻中村遺跡(相模原市)のはちまき土偶はっちです。発掘調査や出土品整理中の遺跡の紹介をします



## 社家宇治山遺跡（しゃけうじやま いせき）

| （所在地） | 海老名市 | （時代） | 弥生時代、古墳～奈良・平安時代、中・近世 | （調査期間） | 2003 年3月～2008 年5月 |
|-------|------|------|----------------------|--------|-------------------|
|-------|------|------|----------------------|--------|-------------------|

社家宇治山遺跡は、海老名市の南西部、J R 相模線社家駅の北西約0.3kmの相模川左岸の自然堤防上に立地します。発掘調査は、さがみ縦貫道路の建設に伴い東名高速道路とのジャンクション建設のため、中日本高速道路株式会社より委託を受けて実施されました。近世・中世では、戦国時代から江戸時代に営まれた屋敷跡が、奈良・平安時代では集落跡や当時使用された道が発見されています。

古墳時代前期～弥生時代後期では、多くの方形周溝墓が発見され大変注目をされました。周溝墓の他には、遺跡の北側を中心に、管玉を生産した玉造り工房の跡と思われる住居跡が複数発見されています。工房の跡からは、グリーンタフ（緑色凝灰岩）製の管玉の製作途中の物や製作過程で生じた玉の破片や石片、原料となる原石等が多数出土しました。管玉は、穿孔してあるものから、最終的な研磨が施されていないもの、未だ四角柱を呈するものまで色々となりました。玉造り工房の発見された遺跡は県内で数例しか報告されておらず、大変貴重な発見といえます。



管玉の製作工程を示す遺物

## 下糟屋・丸山遺跡（しもかすや・まるやまいせき）

| （所在地） | 伊勢原市 | （時代） | 縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世、近世 | （調査期間） | 2008 年1月～8月、2008 年1月～2月 |
|-------|------|------|------------------------------|--------|-------------------------|
|-------|------|------|------------------------------|--------|-------------------------|

下糟屋・丸山遺跡は、伊勢原市下糟屋に所在する遺跡です。調査は成瀬第二地区特定土地区画整理事業に先立ち、独立行政法人都市再生機構東日本支社の依頼を受けて実施しました。

遺跡は渋田川左岸にある低位の丘陵上に位置しており、鎌倉に仕える糟屋氏によって中世初め頃に築城されたと伝えられる丸山城跡に該当します。

今回の調査地点では、丸山城の周囲を巡る幅約17m・深さ5m程度の堀や、その外側を段切りして整地した跡のほか、柱を立てたかもしくは半地下式に掘り込んだ建物跡などが複数検出され、城の外郭に位置する作業場等の様々な施設の広がりを確認することが出来ました。また丸山城の内部には更に鉤の手状の堀が巡らされており(写真)、調査地点周辺には、城の内郭の一部に該当する重要な施設が存在した可能性も考えられます。それぞれの遺構からは、14～15世紀代の片口鉢や壺等の陶磁器類や、「かわらけ」と呼ばれる素焼きの皿の破片などの遺物が出土しました



丸山城の内郭の堀(鉤の手状)

## イベントレポート

### 相模原市 津久井城 本城曲輪（つくいじょうほんじょうぐるわ）見学会

神奈川県内では、道路や住宅等の建設工事、施設の整備に伴って各地で遺跡の発掘調査が行われています。調査成果はいずれ報告書として刊行されますが、発掘調査が行われている途中でも調査の様子や出土品などの成果を知っていただくことがあります。それが遺跡見学会です。

津久井城山頂部の「本城曲輪」では、2009 年5月16日に遺跡見学会を実施しました。見学会では、最初に津久井城全体の話をを行い、その後、各班に分かれて解説者と共に発見された遺構を見て歩きました。また、城山の山麓にある津久井湖城山公園パークセンターでは、今回の調査で見つかった遺構を映像で紹介し、遺物の展示も行いました。

当日はあいにくの曇り空でしたが、山麓の居館跡から詰め城である山城山頂部に登ることで、参加された皆さんにも中世の武士達の想いが伝わったのではないのでしょうか。



見学風景



本城曲輪の階段状遺構

## 考古学ミニコラム 第6回

### 旧石器時代から弥生時代まで

#### — 石 斧 —

石斧は、文字どおり石の斧で、旧石器時代から弥生時代までの長い時代にわたって樹木の伐採や木材の加工に使用された石器です。

約3万年前の旧石器時代初頭には、刃の部分だけを磨いた石斧が特徴的にみられ、相模原市城山町の津久井城跡馬込地区ではこうした石斧を盛んに作っていたことが明らかとなりました。縄文時代になると磨製を含む各種の石斧が作られ、磨製石斧が普及する縄文時代前期以降には、石材産地で石斧を多量に生産して各地に供給するようになります。山北町尾崎遺跡も縄文時代中期の石斧生産遺跡で、丹沢の良質な凝灰岩を石材として乳棒状石斧を多量に生産しています。また弥生時代中期には「まさかり」のように木の伐採に使用した大型蛤刃石斧と「ちょうな」のように木材加工に使用した柱状片刃石斧や扁平片刃石斧から構成される大陸系の磨製石斧が特徴的に認められ、秦野市砂田台遺跡や海老名市河原口坊中遺跡などから数多く出土しています。



津久井城跡馬込地区出土の石斧（3万年前）と製作工程を示す接合資料